

「ダメ」示そう 天野さんの精神

表題は朝日新聞 9 月 22 日掲載の心に響く記事であり、書き留めておきたい。

リードから一 2 年前まで本紙に連載されたコラム「CM 天気図」の筆者でコラムニストの天野祐吉さんの妻、伊佐子さん(50)が、安全保障関連法案反対の抗議行動に参加した。軽妙な語り口で社会を切り取った天野祐吉さんは「平和憲法を守れ」が信条だった。そんな遺志を継ぐように、デモに足を運んだ伊佐さんが、文を寄せた。

日本は、とんでもない方向へと、まっしぐらに進んでいこうとしている。

安倍さんたちはナンダカンダとヘリクツをつけては憲法 9 条を勝手に解釈し、強引に安保法案を通してしまった。日本は 70 年前に敗戦を経験し、「もう軍隊は持たない、戦争を放棄する」と世界中に宣言した。なのに憲法違反という声があがろうが、おかまいなしなんだそうだ。

そんな国会でのやりとりを見て、このままでは危ない国になってしまう、権力の暴力はたくさんだ、と思った人が、国会前に集まった。その中でひとときわ輝いていたのは、「SEALDs (シールズ)」という学生たちの集まりだ。若者らしい率直なことばが生きていて、真正面から各世代に届き、全国各地にひろがった。

ラップのリズムに合わせたシュプレヒコールは、ときにユーモラスで、思わずプツと噴き出してしまう。それはまるで側面から相手をギャフンと言わせる、粋のいいヤジのようだった。

空気は、窒素と酸素と“ことば”で出来ていると思う。粋のいいヤジには、権力や権威がふりかざされて呼吸しにくくなっている状況を、パツと切りひらく働きがある。学生たちの“ことば”は、国会でのやりとりを見てアップアップと呼吸困難になりかけていたわたしたちに、新鮮な空気と希望を送り込んでくれたように思う。

権力の暴力を目のあたりにした国民をナメていると、安倍さんはとんでもない、しっぺ返しを受けるんじゃないかな。ジミントーという空気だけを吸っていると、ますます想像力貧乏になり、窒息しちゃうよ。そうなる前にたまにはコッソリ国会前に行き、集まった人たちの空気を吸ったほうがいいと思うけど、余計なお世話かな。



(2015 年 9 月 25 日)